

## 地域密着型サービス 運営推進会議 報告書

施設名：湖水苑

施設種類：グループホーム ・ 小規模多機能型居宅介護施設（該当に○）

日時： 1年 10月 9日 14時～15時

会場： 湖水苑レイクホール

参加者

利用者代表	0人	有識者	2人
利用者家族	0人	高齢者あんしん支援センター職員	1人
地域住民の代表	1人	出雲市職員	0人
その他〔施設長・介護支援専門員兼管理者、〕			3人

### 1：利用状況

#### ご利用状況現在

男性2名、女性17名（空床0）平均介護度2.1 平均年齢 86.8才  
湖陵町6名、佐田町2名、大津町1名、大島町1名、知井宮町1名  
所原町1名、大社町1名、塩冶町1名、今市町2名

## 2：近況報告

### 湖水苑敬老会



9月17日、湖水苑敬老会が行われました。グループホームからは2名の方が米寿と百寿のお祝いを受けられました。レイクホールにて式典が行われ、たいしゃ保育園の園児さん達にもお祝いして頂きました。式典後はご家族と一緒に、食事され、笑顔の多い一日となりました。

### グループホーム敬老会



9月19日 グループホーム湖水苑にて敬老会を催しました。平均年齢87歳の18名（男性2名、女性16名）のご利用者と長寿の喜びを祝いました。一か月前から担当の職員が企画を考え、当日までに弁当やボランティアの手配、苑内の飾りつけ、デザートを試食まで入念な準備を重ねてきました。その甲斐もあって、当日は秋晴れの清々しい日となり、ご利用者の皆さまもご満足の1日でした。

### 認知症サポーター研修



9月18日 出雲西高等学校へ出向き、認知症サポーター養成講座を行ってまいりました。貴重な2時間の授業時間を頂き、3年生27名の生徒さんに対して、苑での事例を交えな

からお話させていただきました。拙い説明で分かりにくい部分もあったかもしれませんが、みなさん静かに聴いて下さりました。認知症に対する理解を深められ、サポーターとして活躍して頂けると、嬉しく思います。

#### 入退所状況

9月9日 入所者1名（介護度5） 退所 湖水苑特養へ

9月11日 入所 高齢者住宅より （要支援2）

#### 待機状況

現在12名の入所待ちの待機状況。

#### 事例発表

\* 72歳女性 入所2年2ヵ月

入所後より、状態の変化が続いており、比較的早いスピードで認知症が進行していた。話す内容が支離滅裂となり、過去の記憶や語彙が急速に少なくなった。昨年秋ごろより服を重ね着するようになり、多い時では20枚以上着込むこともあった。3月頃より、強い帰宅願望の訴えが始まり、感情の起伏が激しくなった。4月に入り、自室より外へ出られることが増え、職員で話し合いの時間を多く持った。今までの関わり方を見直し、認知症高齢者に対する専門職としての対応をするよう心掛けた。また夜間専門職員とも同様の話し合いの場を設け、全職員が同じ対応をするよう努めた。家族とも面談を行い、現状の状況、行っている対応、今後起こりうることなどを伝えた。万が一のことを考え、家族と共に、近隣の商業施設へ情報提供を行い、協力を得ることが出来た。主治医とも相談をし、少し内服薬の種類を増やした。それでも外へ向かわれる状態が続いているが、職員との関係は深まり、少しずつ外へ向かう回数も減っている。

\* 2か月経過した様子

外へ向かう回数は、一瞬減ったが、収集癖が強くなり、苑庭の花や枝葉を際限なく採取をするようになった。自室より早朝から日が沈むまで、何度も出入りを繰り返し、職員の誘導にも応じず、炎天下の中、植物を採取し続けた。職員の対応も追いつかず、職員が誰も気づかないまま外へ出て、他部署職員に見つけてもらって帰って来ることも多くあった。再び主治医に相談し、入所前にかかりつけであった神経内科へ紹介状を書いて頂き、受診する。新たな内服薬が処方され、様子を伺うが、落ち着かれる様子無く、経過を伺う。部屋は草木だらけになり、独特の匂いや、微生物などが溜まる。タイミングを見て掃除に入って処分するが、またすぐに増えてしまう堂々巡りが続いた。週に1度受診を行い、その都度、内服薬を微調整しているが、未だ試行錯誤の日々が続いている。現在、外で植物

を採取することはほぼ無くなったが、施設内での収集（他者居室、事務所、玄関にて）は続いている。

\* 更に2ヵ月経過した現在の様子

毎週病院に通ってドクターと情報共有し、薬の調整を続けた。なかなか状態の良い変化が見られず、少しずつ服薬量が増えた。8月末、急に薬の効果が顕著に表れ、あらゆる体の機能が停止し、ほとんどの動作に介助が必要となった。歩行機能が無くなり、車イス移動となった。食事に時間がかかり、摂取量も減った。排泄感覚がなくなり、常に介助が必要となった。すぐさま、すべての精神薬の服薬を中止して機能回復を図った。1週間が経過した頃、少しずつ機能が回復して自立して出来る事が増えた。歩行機能が回復すると、収集や外へ向かうなどの行動も再開した。ドクターと相談しながら、少しずつ、服薬も再開した。現在は毎日、その日の様子を伺いながら、服薬量を決めて対応している。

3：今後の予定

- ・ 次回の運営推進会議は12月11日です。

\* 出席者より

- ・ 事例発表の中に「認知症高齢者に対する専門職としての対応」とあるが、詳しく聞きたい。

⇒基本的な認知症高齢者に対する声のかけ方、言葉の使い方を徹底するようにした。声のトーンであったり、言葉のチョイス、目線を合わせ、笑顔でゆっくりと等、それぞれの職員が自分のやり方で対応するのではなく、全職員が統一した対応を実践した。